

第二十三回国民文化祭

「常世の国 筑波嶺 翔ける 文化のいぶき」をテーマに11月1日（土）～9日（日）にかけて県内の市町村で「第二十三回国民文化祭」が開催され、いばらき2008」が開催されました。行方市内では市民劇や七色帆引き船の運航、まちなか観光や狂歌大会・シンポジウムなどが行われ、市内外からたくさんの方々が来場がありました。

国内最大の文化の祭典といわれる国民文化祭は、各種の文化活動を発表・競演し、交流を深めることで、さらなる文化活動への参加と新しい芸術文化の創造を促すことを目的に開催されています。限られた日程ではありますが、行方市の魅力を全国に発信できたのではないかと思います。

シンポジウム

十返舎一九と霞ヶ浦「常総地方を舞台にした一九旅の文学」



「狂歌大会」には、全国から320首の応募があり、大崎美代さん（八木時）の作品「筑波山つくばっていつてあの高さ立てば富士より高くなるかも」が茨城県知事賞を受賞されました。また、シンポジウムでは、東洋大学の中山教授による基調講演等により訪れた観客の皆さんも十返舎一九の世界を満喫できたと思います。



まちなか観光

麻生藩家老屋敷、大場家住宅など市内の国、県指定の文化財巡りをしました。



「ツクバ系GIRL」麻生高校演劇部

11月8日（土）、9日（日）2日間にわたり上演された市民劇、麻生高校演劇部による「ツクバ系GIRL」、まちづくり市民劇団●玉造座による「天狗-TENGU-」、すばらしい舞台に大きな拍手が送られていました。



麻生高校演劇部とまちづくり市民劇団●玉造座の皆さん

市民憲章

私たち行方市民は、湖と台地の恵みに感謝し、歴史ある郷土に誇りと愛着をもち、共に学び、共に汗して、ふれあいを大切にしたい、明るく住みよいまちをつくるため、ここに憲章を定めます。

やさしい自然
かがやく人
わたしたちがつくる
魅力あるまち、行方市



【市の花】



ヤマユリ（山百合）

【市の木】



イチヨウ（銀杏）

【市の鳥】



シラサギ（白鷺）